

「環境・安全・健康」の確保に関する活動の成果報告書

RESPONSIBLE CARE REPORT 2023



環境・安全・健康を守り 信頼される事業所を目指して

もくじ

1	ごあいさつ	2
2	岡山事業所の概要	3
3	レスポンシブル・ケア (RC) 活動について	
	①三菱ケミカルの環境安全活動	5
	②岡山事業所のRC方針	5
	③岡山事業所のRC活動	6
	④2022年度RC活動の成果と反省	7
	⑤三菱ケミカル旭化成エチレン (AMEC) 社のRC方針と環境安全の取り組み	8
4	環境保護への取り組み	
	①有害大気汚染物質の排出量削減	9
	②事業所排水の管理	11
	③環境の保護及び保安・安全に関する投資と費用	12
	④廃棄物の管理	13
	⑤地球環境問題への取り組み	13
5	保安防災への取り組み	14
6	労働安全衛生への取り組み	18
7	定期修理における安全管理	20
8	品質保証への取り組み	22
9	化学品・製品安全への取り組み	23
10	地域の一員として	24
11	さいごに	27

1. 報告対象範囲

集計データについては、2022年4月～2023年3月、関連事例・記事等については、2023年8月までの活動が含まれています。

2. 岡山事業所の構成組織

三菱ケミカル(株)岡山事業所
日本ポリエチレン(株)水島工場
日本ポリプロ(株)水島工場
三菱ケミカルハイテクニカ(株)
三菱ケミカルエンジニアリング(株)水島事業所
三菱ケミカル旭化成エチレン(株)
三菱ケミカル物流(株)
(株)ロンビック水島工場
エムシーパートナーズ(株)
ダイヤリックス(株)
日本イソブチレン(有)水島工場

3. 発行年月

2023年12月



1 ごあいさつ



世界的にSDGsへの理解が浸透する中、カーボンニュートラル社会の実現や、海洋廃棄プラスチックによる環境汚染、地球温暖化の進行をはじめとした、多くの困難な課題に社会は直面しています。私たち化学産業への期待役割は、これらの課題の解決に繋がる技術と製品を開発し社会に提供していくことであり、その取り組みを継続することで、困難な課題の解決、ひいては「KAITEKI」社会の実現に繋がっていくものと考えています。

三菱ケミカルでは、プラスチックを再利用する新たなリサイクル技術の確立や人工光合成などの化石資源を使わない技術等を通じ、サーキュラーエコノミー（循環型経済）の形成に貢献できるよう努めており、2050年のカーボンニュートラル達成を目指して、2030年度までのGHG（温室効果ガス）排出量の削減目標を設定しました。この目標を達成するために、環境負荷の低い再生可能エネルギーを発電に導入することや、「社内炭素価格制度（社内において炭素価格を設定し、GHG排出量を金額換算することにより排出削減を進めていく制度）」の導入を推進するなど、原料段階から製品製造に至るまでの全体で、GHG排出量削減目標の達成を目指して取り組んでいます。

また、岡山事業所では、2021年度から始まった中期運営計画「OMP（岡山ものづくりプラン）25」の中で、サーキュラーエコノミーの実現を重点項目の一つに掲げ、GHG排出量の低減などの社会課題に対して、役立つ素材と技術を提供することで貢献していくために、事業所全体をあげて取り組んでいます。

岡山事業所は、三菱ケミカルにおける基礎化学品事業の西日本の拠点であり、皆さまの生活に役立つさまざまな基礎化学製品を生産しています。製品を通して社会に貢献することを使命としている私たちにとって、製品の品質を確保し安定的に供給することはもちろんのこと、安全で衛生的な労働環境の下で、環境負荷の少ない事業を行うことが重要な社会的責任であると考えています。

この社会的責任を果たすため、生産活動の過程において多種多様な化学物質を取り扱っていることを認識し、岡山事業所では「保安防災」「労働安全衛生」「環境保全」「品質保証」「化学品（製品）安全」を5本柱とするレスポンスブル・ケア（RC）活動に積極的に取り組んでいます。

さらに、岡山事業所は、総合化学会社の事業所として初となる「特定認定事業所」の認定取得事業所として、今後も保安管理活動や設備管理の確実な実施に加え、高度なリスクアセスメントの実行やIoT（internet of Thingsの略称）、ビックデータ等のDX（デジタルトランスフォーメーション）技術を活用した先進技術の導入などに取り組み、さらなる保安力の高度化と安全意識の向上に努めています。

私たちは、多くのステークホルダーの皆さまのご理解・ご協力を得て事業を運営しております。『従業員一人ひとりが生き生きと働き、皆さまから信頼される事業所』の実現を目指し、「One Company, One Team」の理念の下、積極的なRC活動に取り組んでまいりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

三菱ケミカル株式会社 岡山事業所
事業所長

仰木 啓訓

2 岡山事業所の概要

●所在地

岡山県倉敷市潮通三丁目10番地
〒712-8054

●敷地面積

約180万m²

●従業員数

約2,000名
2023年7月現在(グループ会社含む)

●沿革

- 1964年 化成水島(株) 操業開始
〔年産4万5千トンのエチレンプラント
1基と誘導品プラントで操業を開始〕
- 1974年 三菱化成(株) 水島工場となる
〔1988年 高圧ガス自主保安認定取得〕
- 1994年 三菱化学(株) 水島事業所となる
〔1997年 高圧ガス自主保安認定4年化取得〕
- 2017年 三菱ケミカル(株) 水島事業所となる
〔2018年 特定認定事業所の認定取得〕
- 2019年 三菱ケミカル(株) 岡山事業所となる

●水島コンビナートについて

水島コンビナートの敷地面積は、約2,500万m²あり、石油化学をはじめとして、石油精製・鉄鋼、自動車・電力会社等、約240社が集積しています。

水島コンビナート全体の従業員数は2万人を超え、また、岡山県全体の約45%を占める製造品出荷額(約3兆2,104億円/2020年)をほこり、まさに岡山県における工業の中核といえます。

●岡山事業所の配置



 インプット 【供給】	<p>ナフサ 消費量 247万KL/年</p>	<p>水使用量(上水・海水・工業用水) 1億9,232万m³/年*1</p> <p>エネルギー消費量 (電気、蒸気、燃料) 64万KL/年*2</p>	 アウトプット 【出荷 排出・発生】	<p>製品 出荷量 107万トン/年</p>	<p>公共水域への排水量 1億9,015万m³/年</p> <p>廃棄物発生量 19,291トン/年</p>	<p>大気への排出量</p> <p>CO₂ 127万トン/年*3 NOx 2,192トン/年 SOx 251トン/年 ばいじん 29トン/年</p>
--	--	--	---	---------------------------------------	---	---

*1…三菱ケミカル旭化成エチレン社の使用量を含む *2…原油換算値

*3…「エネルギーの使用の合理化に関する法律」準拠

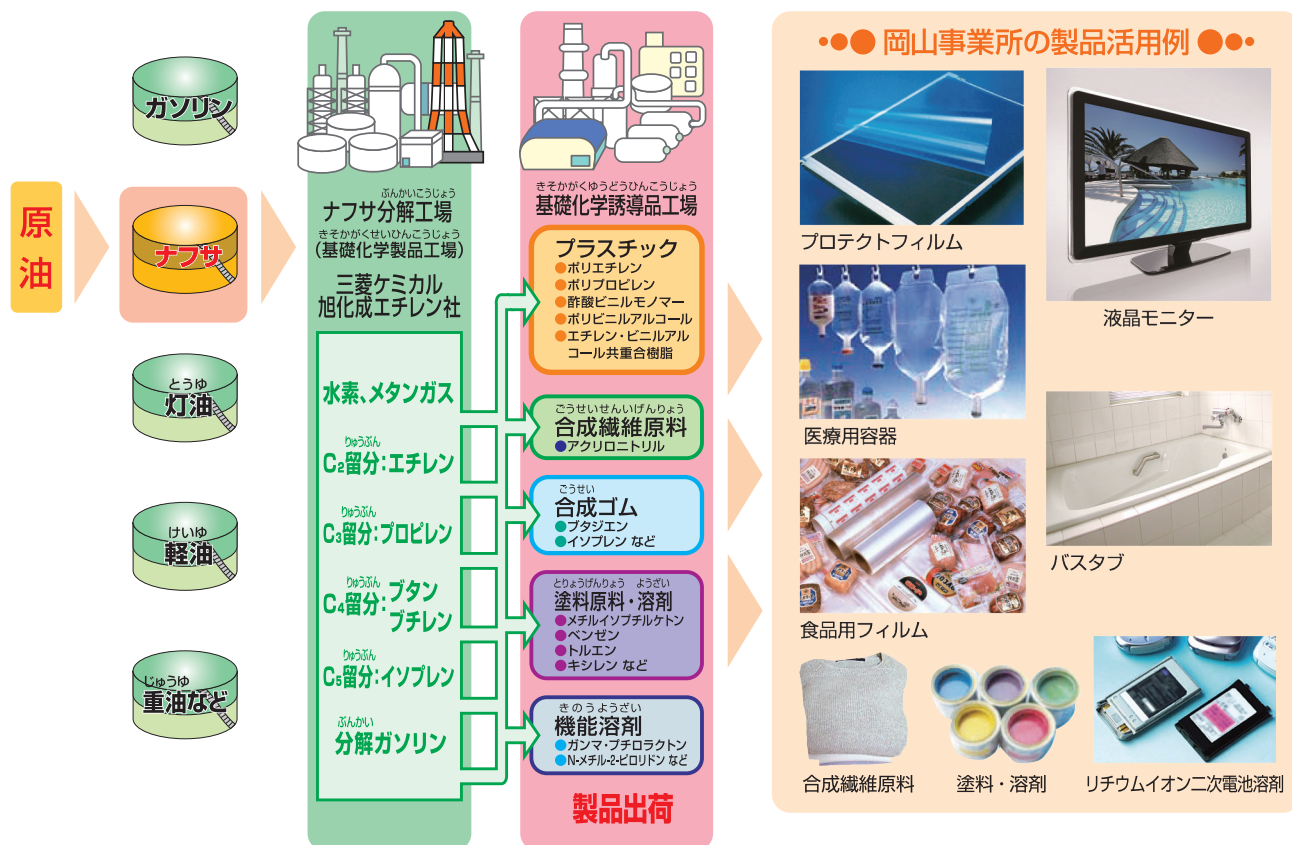
■ 岡山事業所エリアで生産される製品

岡山事業所では、「基礎化学製品分野」及び「機能商品分野」の製品を生産しており、年間約57万トンの生産能力を持つエチレンプラント（三菱ケミカル旭化成エチレン株式会社にて運営）を中心に、約30のプラントを有しています。

また、資源をより効率的に活用し、製品の付加価値を高めるために、化学物質、触媒技術、反応プロセス等の研究開発にも積極的に取り組んでいます。

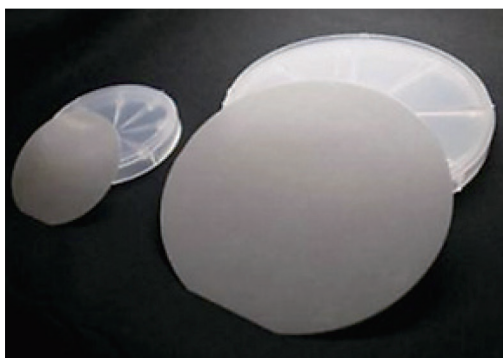
◆ 基礎化学製品分野

「基礎化学製品分野」では、原油から得られる「ナフサ」とよばれる原料を出発点に、あらゆる化学製品の基礎原料が生まれます。エチレン、プロピレン、ブタン等の基礎原料を基に、「液晶テレビの偏光膜の原料であるポリビニルアルコール」や「リチウムイオン二次電池に用いられる負極材成形用の溶剤の原料であるN-メチル-2-ピロリドン」等の製造を行っています。



◆ 機能商品分野

プロジェクターや高輝度ヘッドライトに使用されるレーザーダイオード用基板や電子デバイス用基板として、幅広い分野で使用されている窒化ガリウムの研究開発を行っています。



ガリウムナイトライド

化学製品の高付加価値化を目指し、食品容器に使われる2軸延伸ポリスチレンシートの製造を行っています。



2軸延伸ポリスチレンシート

③ レスポンシブル・ケア(RC)活動[※]について

※以下文章中の緑文字の意味は、**解説**を参照

① 三菱ケミカルの環境安全活動

三菱ケミカルは、「環境安全理念」及び「環境安全に関する方針」を策定し、保安防災・労働安全衛生・環境保全の活動を推進しています。

環境安全理念

1. 安全は企業存立の基盤をなすものであり、安全の確保は企業の社会的責任である
2. 環境保全と環境改善を企業の使命とし、人と地球に優しい企業を実現する

環境安全に関する方針

1. 法令はもとより企業倫理を含めた社会的ルールを遵守する
2. 事故及び労働災害のゼロを追求する
3. 地球温暖化防止及び自然環境保護のために環境負荷を低減する
4. 環境安全に関する教育を行い、自らの責任を自覚し行動できる人材を育てる
5. 社会からの理解と信頼向上のために、社会との親密なコミュニケーションを図る
6. 最新技術や社内外の情報を活用し、継続的に改善する

レスポンシブル・ケア (RC) 活動とは？

解説

製品の開発から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄に至る全ての過程において、「環境・健康・安全」を確保し、その成果を公表し、社会との対話・コミュニケーションを行う自主活動です。

② 岡山事業所のRC方針

岡山事業所では、「三菱ケミカル 環境安全に関する方針」に基づき、持続可能な未来に向けて、岡山ものづくり力を確立し、役立つ素材と技術を提供して、広く社会に貢献するため、「岡山事業所 RC方針」を定めております。

岡山事業所 RC方針

「三菱ケミカル 環境安全に関する方針」等に基づき、岡山事業所エリアOMP25「持続可能な未来に向けて、岡山ものづくり力を確立し、役立つ素材と技術を提供して、広く社会に貢献する」に向け、以下の活動方針を定めるとともに、この方針を従業員全員に周知、理解され実現するため、活動目標と計画を策定し継続的に改善していく。

- 1. 法令はもとより企業倫理を含めた社会的ルールを遵守する**
法令や国際基準等の特定要求事項の遵守はもとより、環境安全に関する社会の要請を把握し、これを事業活動に反映させる。
- 2. 事故及び労働災害のゼロを追求する**
事業活動における保安・環境事故や労働災害を防止するため、科学的知見を基に過去の事例を解析するとともに、常に現状を見直し、本質安全に向けた適切な対策を講じることによって、事故及び労災のゼロを追求する。
- 3. 地球温暖化防止及び自然環境保護のためにサーキュラーエコノミーを推進する**
事業活動において発生する廃棄物の削減やリサイクル推進を行い、ゼロエミッションを目指すとともに、潜在的リスクがある化学物質等については、使用と排出の最少化を進める。また、資源保護及び地球温暖化の防止等の観点から、省資源及び省エネルギーをより一層推進する。
- 4. 化学品に関する最新情報の収集整備に努め、化学品を適正に管理する**
化学品の取扱時や製品の物流、使用、廃棄等の際における事故及び災害を防止するため、最新の安全情報、環境影響情報の収集及び整備に努め、化学品を適正に管理する。また、必要に応じて関連する情報を関係先と共有する。
- 5. 安全・安心な製品供給を通してお客様の満足向上に努める**
全ての製品・サービスに関する最新の品質情報を関係先に提供するとともに、品質を維持・向上させ、保証することを通してお客様の満足向上に努める。
- 6. 社会からの理解と信頼向上のために、社会との親密なコミュニケーションを図る**
環境安全に関する取り組み及び成果の公表等を通して社会とのコミュニケーションを図ることで、理解と信頼の向上に努める。
- 7. 最新技術や社内外の情報を活用し、継続的に改善する**
最新のDX技術や社内外の情報を広く活用した技術開発及び研究開発によって、より保安リスクの低い、安全で環境負荷の少ないプロセス・製品の開発と改善を継続して、スマート保安を確立する。
- 8. 環境安全に関する教育を行い、自らの責任を自覚し行動できる人材を育てる**
あらゆる事業活動において、災害の防止並びに地域及び地球環境の保護に最大限の努力を傾注することにより、人の健康・安全及び環境に与える影響を最小限にするため、環境安全に関する教育を推進し、自らの責任を自覚し行動できる現場保安力を備えた人材を育成する。

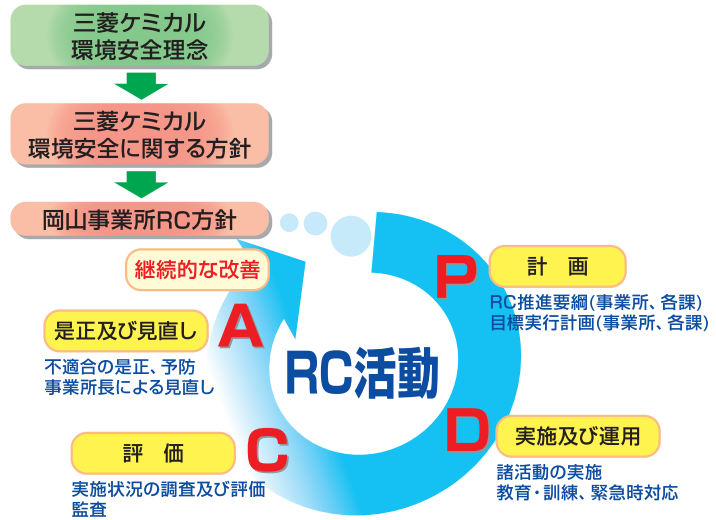
2023年4月1日 三菱ケミカル株式会社 岡山事業所 事業所長 仰木啓訓

3 岡山事業所のRC活動

「岡山事業所 RC 方針」に基づき、「RC 推進要綱」を策定し継続的な改善を行います。2022 年度は「各職場は現地・現物・現実から弱みを把握し確実に改善する」、及び「事故労災を未然に防止するためにDXを有効に活用する」ことを年度方針とし、安全文化診断による弱み強みの把握などを実施しました。

2023 年度は安全文化診断結果の活用による継続的な改善の推進により、各職場の弱みやリスクに重点化した改善に取り組みます。

また、2025年度のあるべき姿を見据えた「OMP25（岡山ものづくりプラン）」を策定しています。OMP25は「持続可能な未来に向けて岡山ものづくり力を確立し役立つ素材と技術を提供して広く社会に貢献する」をビジョンにかかげ、「ものづくり基盤・競争力強化・人材育成・安心で健康な職場・スーパー認定」の5つの基本方針により活動しています。



安全文化診断とは？

解説

安全文化に影響する[動機付け・組織統率・積極関与・相互理解・危険認識・学習伝承・作業管理・資源管理]の8要素で構成されたアンケートを従業員に対し実施し、その回答結果から、業界平均をベンチマークとして事業所従業員の強み・弱みを網羅的に把握する第3者機関による診断です。

<岡山事業所OMP25ビジョン>



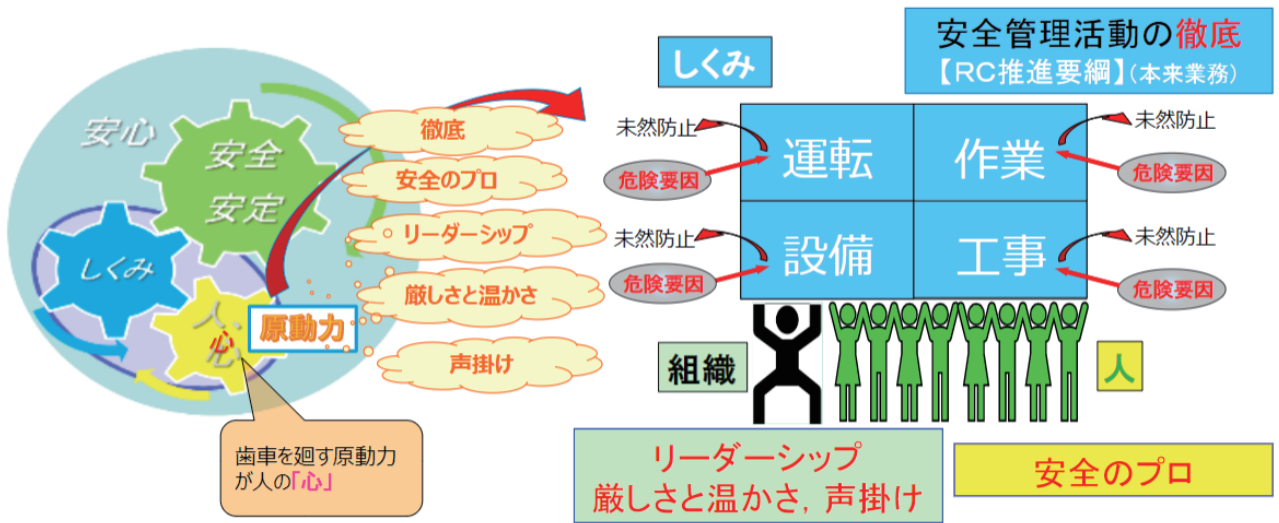
サーキュラーエコノミーとは？

解説

リサイクルを含む資源の有効活用や再生可能原料の使用などをはじめとする循環型経済活動であり、資源消費の最小化や廃棄物発生抑制等をめざすものです。

3 レスポンスブル・ケア(RC)活動について (つづき)

<OMP25 安全活動方針>



◇各管理の“仕組み”を徹底実行する“人”，“組織”になり、事故・労災ゼロを達成する。その為の新しい手段として「**ヒューマンスキルの向上**」や「**安全文化の向上**」に取組む。

4 2022年度RC活動の成果と反省

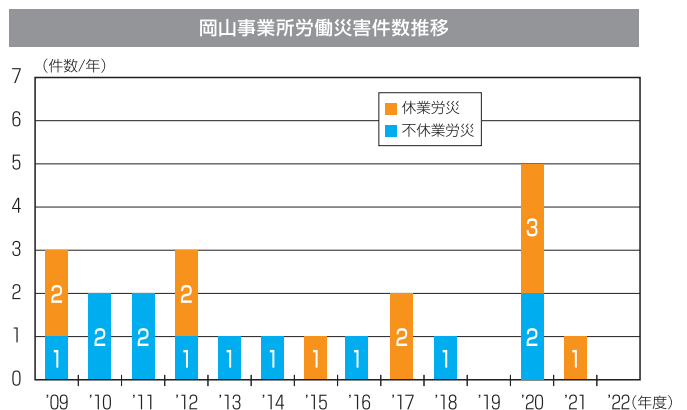
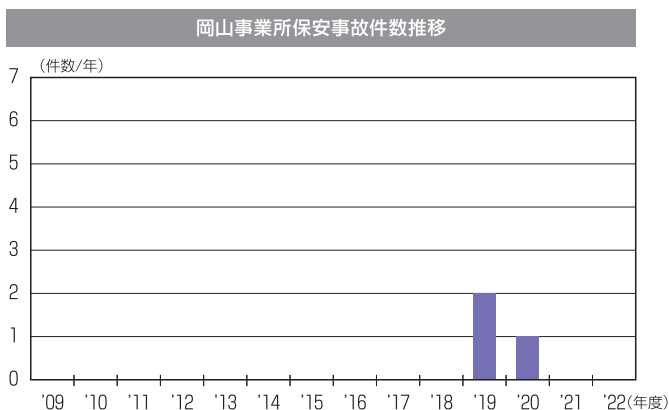
2022年度は推進責任者である環境安全・品質保証部長の下、安全衛生面については心理的安全性を高めた相互啓発型の組織をめざし、保安面については従来から実施しているリスクアセスメントを教育や訓練及び先端技術の利活用により、現場保安力の向上に、環境面ではRC方針に基づく環境負荷低減に取り組みました。

安全成績に関しては、2022年度は環境事故ゼロの継続と保安事故と労働災害ゼロを達成しました。

2023年度は2022年度の方針を継続するとともに、安全文化診断結果の活用や心理的安全性を高めることに重点化し、RC活動に取り組んでまいります。



環境安全・品質保証部長 上夷 孝



5 三菱ケミカル旭化成エチレン (AMEC) 社のRC方針と環境安全の取り組み

AMEC社は、「環境安全理念」及び「環境安全に関する方針」を策定し、保安防災・労働安全衛生・環境保全の活動を推進しています。

AMEC社 環境安全理念・方針

<AMEC社 環境安全理念>

1. 安全は企業存立の基盤をなすものであり、安全の確保は企業の社会的責任である
2. 環境保全と環境改善を企業の使命とし、人と地球に優しい企業を実現する

<AMEC社 環境安全に関する方針>

1. 法令はもとより企業倫理を含めた社会的ルールを遵守する
2. 事故及び労働災害のゼロを追求する
3. 地球温暖化防止及び自然環境保護のために環境負荷を低減する
4. 環境安全に関する教育を行い、自らの責任を自覚し行動できる人材を育てる
5. 社会からの理解と信頼向上のために、顧客、地域、就業者との親密なコミュニケーションを図る
6. 最新技術や社内外の情報を活用し、継続的に改善する

「AMEC社 環境安全に関する方針」等に基づき、全員が主体性と一体感を持って、**ミッションを達成し**「**日本一のエチレンセンター**」を実現するため「AMEC水島工場 RC方針」を定めております。

AMEC 水島工場 RC 方針

「AMEC社環境安全に関する方針」等に基づき、水島工場の全員が「製造現場のプロ」として、変化の原動力となり、組織を活性化して「水島工場のミッション」を達成するために、以下の活動方針を定めるとともに、この方針を就業者全員に周知・理解され実現するため、活動目標と計画を策定し継続的に改善していく。

1. 法令はもとより企業倫理を含めた社会的ルールを遵守する

・法令や国際基準等の特定要求事項の遵守はもとより、環境安全に関する社会の要請を把握し、特定要求事項とともに事業活動に反映させる。

2. 事故及び労働災害のゼロを追求する

・事業活動における保安・環境事故や労働災害を防止するため、科学的知見を基に過去事例を解析するとともに、常に現状を見直し、本質安全に向けた適切な対策を講じることによって、事故及び労働災害のゼロを追求する。

3. 地球温暖化防止及び自然環境保護のために環境負荷を低減する

・事業活動において発生する廃棄物の削減やリサイクル推進を行い、ゼロエミッションを目指すとともに潜在的リスクがある化学物質等については使用と排出の最少化を進める。又資源保護及び地球温暖化の防止等の観点から、省資源及び省エネルギーをより一層推進する。

4. 環境安全に関する教育を行い、自らの責任を自覚し行動できる人材を育てる

・あらゆる事業活動において、災害の防止並びに地域及び地域環境の保護に最大限の努力を傾注することにより、人の健康・安全及び環境に与える影響を最小限にするため、環境安全に関する教育を推進し、自らの責任を自覚し行動できる現場保安力を備えた人材を育成する。

5. 社会からの理解と信頼向上のために、顧客、地域、就業者との親密なコミュニケーションを図る

・環境安全に関する取り組みを通して地域とのコミュニケーションを図ることで、理解と信頼の向上に努める。

6. 最新技術や社内外の情報を活用し、継続的に改善する

・最新のDX技術や社内外の情報を広く利活用した技術開発及び研究開発によって、より保安リスクの低い安全で環境負荷の少ないプロセスの開発と改善を継続してスマート保安を確立する。

4 環境保護への取り組み



三菱ケミカルグループは革新的なソリューションで、人、社会、そして地球の心地よさが続いていくKAITEIの実現をリードしていくというPurposeを掲げ、サステナビリティを経営の中核の一つに据えた企業活動を行っています。岡山事業所では、大気・水質の汚染防止、廃棄物削減、地球温暖化防止などについて取り組み、2022年度も環境事故ゼロを継続しました。また、従業員へ環境法令教育を行い、コンプライアンス意識向上に努めています。その諸活動は環境マネジメントシステム(ISO14001)に適合しており、第三者認証機関の審査を受け、ISO14001認証を継続しています。



ISO14001 (2015年版) 認証書

ISO14001 (環境マネジメントシステム) とは？ 解説

ISOはInternational Organization for Standardizationの略称で、日本語では「国際標準化機構」と翻訳されます。ISO14001は企業等の組織が経済活動を持続しながら、環境を保護し、変化する環境状態に対応する枠組み(環境マネジメントシステム)を提供しています。

1 有害大気汚染物質の排出量削減

岡山事業所ではさまざまな化学物質を取り扱っています。これらの化学物質のうち「健康被害の未然防止」の観点から大気汚染防止法に基づく自主管理対象物質の大気排出量の削減、及び光化学スモッグの原因の一つとされる揮発性有機化合物(VOC)の排出量削減に取り組んでいます。

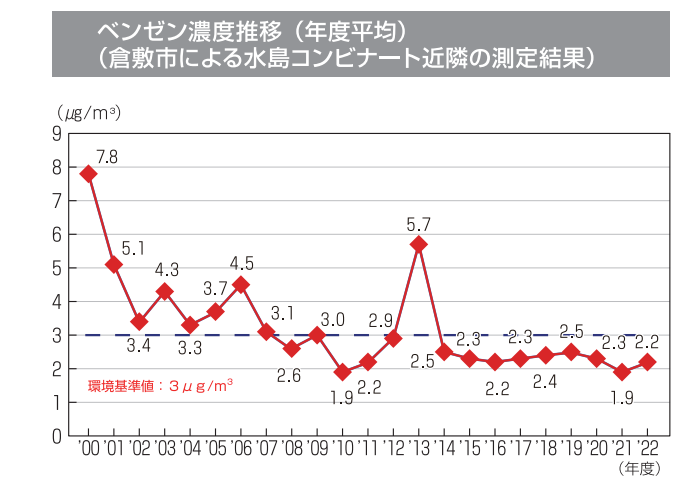
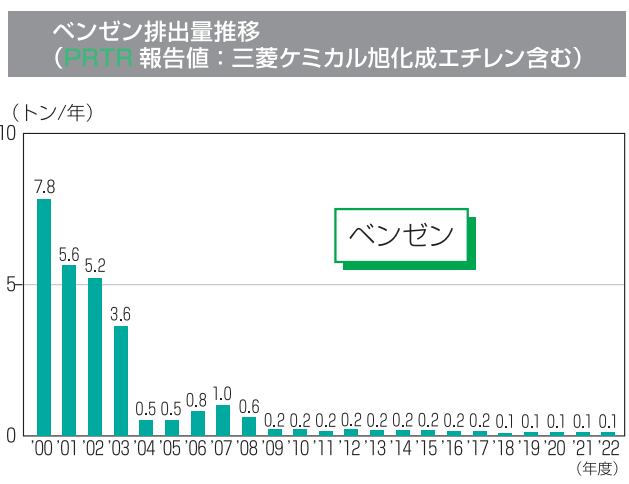
■ 自主管理対象物質の排出量削減

岡山事業所で取り扱っている自主管理対象物質はベンゼン、アクリロニトリルです。

◆ ベンゼン削減対策の取り組み

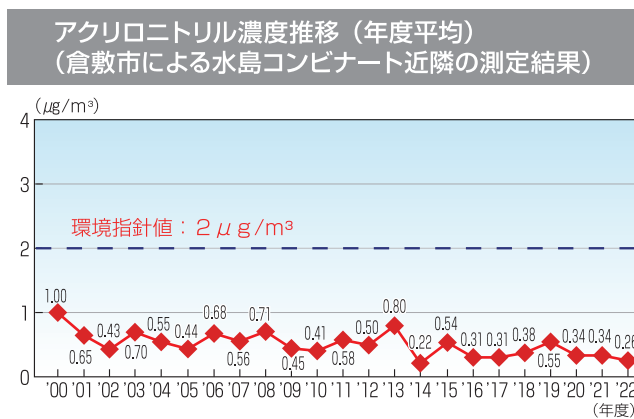
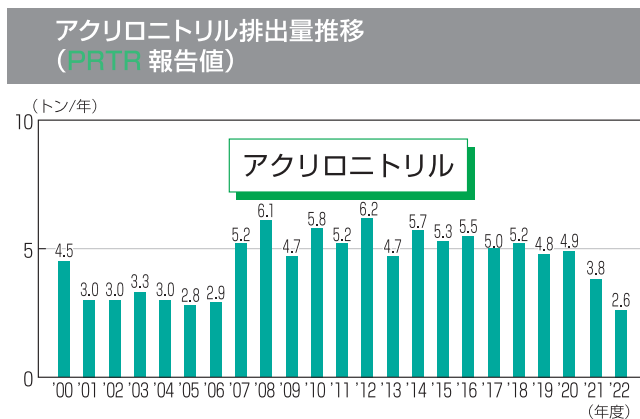
岡山事業所ではベンゼン取り扱い設備に対して、これまで各種の排出量削減対策を実施しており、現在も対策を継続しています。また、運転管理強化による大気排出の未然防止の取り組みを継続しています。

水島コンビナート各企業でも同様な対策や管理を継続して取り組んでいます。水島コンビナート近隣に設置されている倉敷市測定点でのモニタリング調査結果では2022年度も環境基準を達成しております。



◆ アクリロニトリルの排出量推移

2022年度はアクリロニトリルタンクの排出ガス処理方法の改善を実施し、削減しました。大気中濃度についても、近隣の倉敷市による測定点で指針値未満を維持しています。



■ 揮発性有機化合物 (VOC) の排出量削減

光化学スモッグの原因とされるVOCについて、岡山事業所では2000年度に対する排出量削減目標 (50%削減 (自主)) を設備対応等によって2015年度に達成しました。VOC使用量の多い品種の製造量が増減することに伴い、VOC排出量も変動しますが、2019年度に発生した設備管理不備を改善して以降、適切な設備管理に努めています。加えて、2022年度はアクリロニトリルタンクの排出ガス処理方法の改善を実施し、2022年度も目標を達成いたしました。2023年度もこれらの取り組みを継続し、更なる削減を目指します。

環境基準とは？

解説

人の健康を保護し生活環境を保全する上で維持されることが望ましいとされる、大気・土壌の汚染、水質汚濁、騒音などの基準です。

指針値とは？

環境中の有害大気汚染物質による健康リスクの低減を図るための指針となる数値です。

PRTRとは？

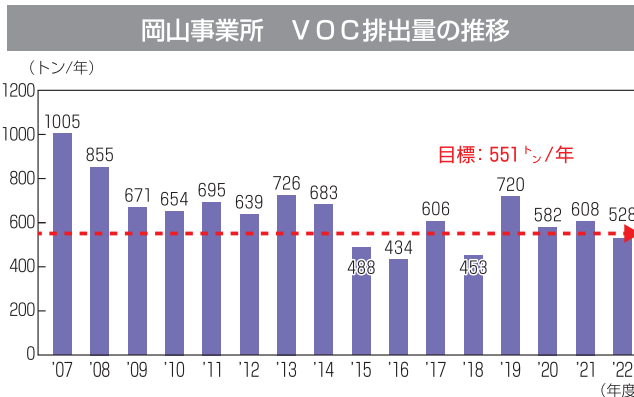
Pollutant Release and Transfer Registerの略で、「環境汚染物質排出・移動登録」という意味です。化学物質がどのように事業所の外に出て行っているのか、その量はどのくらいなのかを集約し、公表する仕組みです。

揮発性有機化合物 (VOC) とは？

解説

Volatile Organic Compounds

揮発性を有し、大気中で気体状となる有機化合物の総称であり、塗料、印刷インキ、接着剤、洗浄剤、ガソリン、シンナーに含まれるトルエン、キシレン、ベンゼン等が代表的な物質です。大気中の光化学反応により、光化学スモッグを引き起こす原因物質の一つとされています。



4 環境保護への取り組み (つづき)



2 事業所排水の管理

■ 水質総量規制への対応

水質総量規制とは瀬戸内海等の広域的閉鎖性海域で赤潮等の原因となるCOD、全窒素、全りん
の総排出量を抑制する制度です。岡山事業所では、これらの項目について連続測定を行っています。総排出量は協定値よりも十分に低い値で管理しています。

COD(化学的酸素要求量)とは？ 解説

水中の有機物が酸化剤によって酸化されるときに消費される酸素の量を示します。

全窒素とは？ 解説

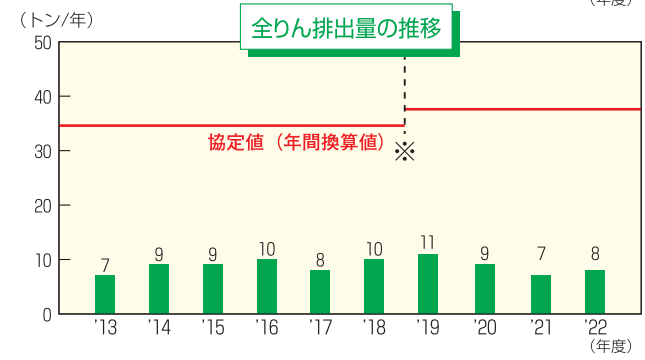
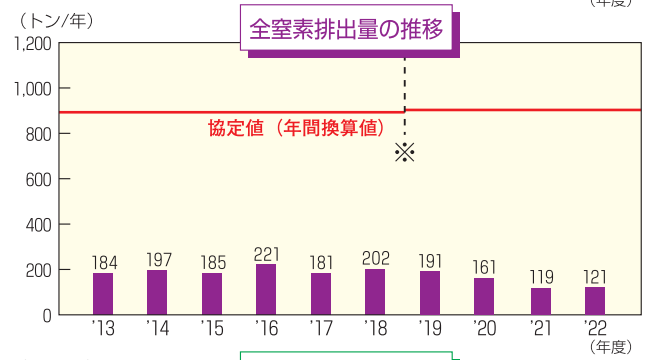
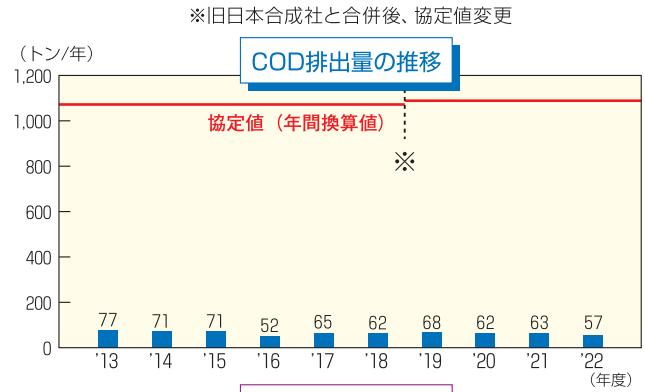
水中に含まれる無機性窒素と有機性窒素の総量を窒素の量で示します。

全りんとは？ 解説

水中に含まれる無機及び有機りん化合物の総量をりんの量で示します。

協定値とは？ 解説

公害防止協定に基づき、岡山県及び倉敷市と三菱ケミカル岡山事業所が締結した値です。



■ 水質汚濁を防止するための取り組み

排水の水質状況については、主要排水溝の末端に設置した連続分析計(COD、全窒素(TN)、全りん(TP)、油膜計、pH計、UV計、TOC計等)及び、生魚モニターで水質を確認しています。これらのモニター監視に加え、環境パトロール員の定期的(5回/日)な現場パトロールによってより細やかな管理を行っています。また、2017年度に完成した水質監視モニターと連動させた水門の自動遮断システムは、さらなる水質管理の強化に貢献しています。

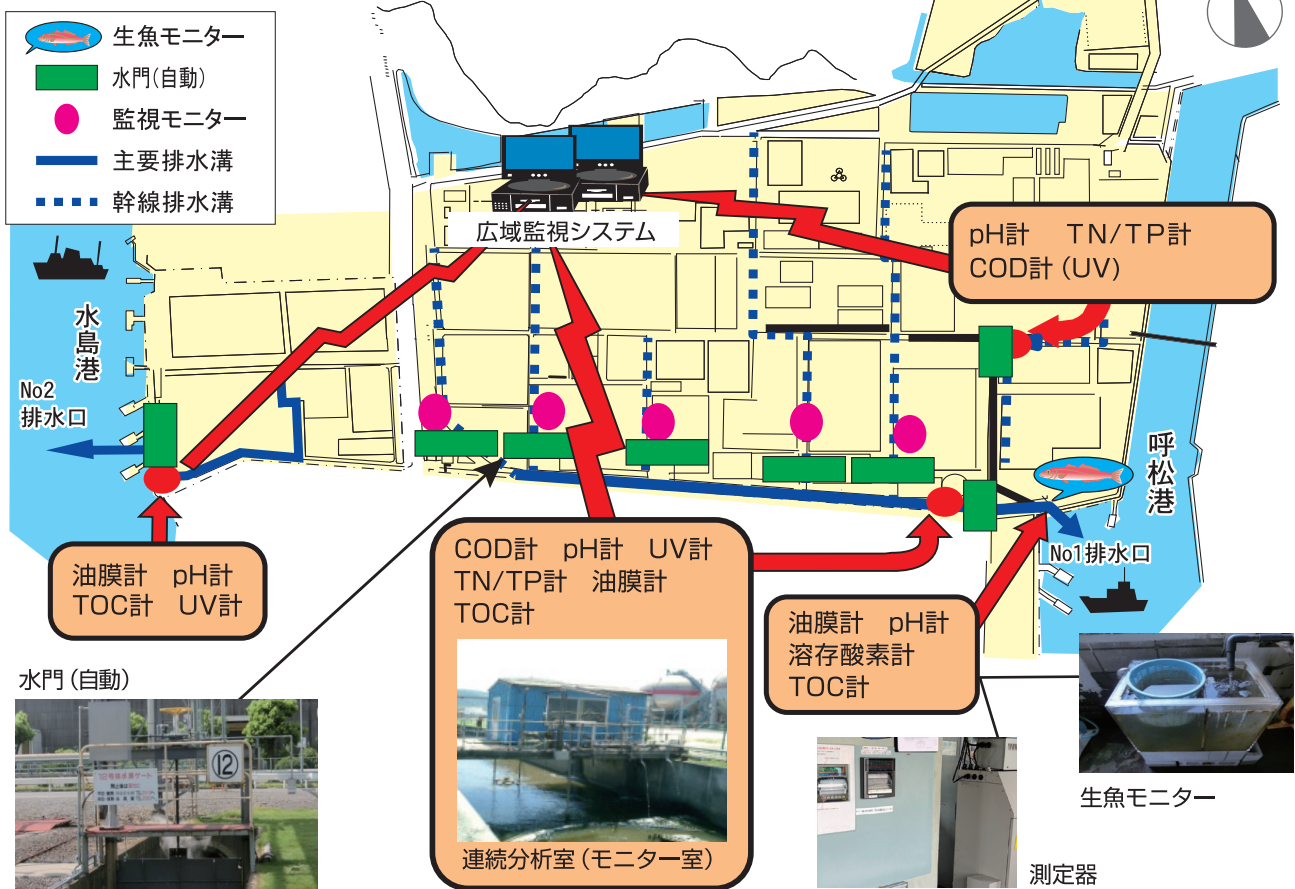
pH計とは？ 解説

工場排水の酸性・アルカリ性の程度を計測します。中性では7を示し、排水基準は酸性：5以上、アルカリ性：9以下です。

UV計、TOC計とは？ 解説

有機物の汚濁度を簡易的に連続測定できます。排水異常が素早く検知できるので工場排水などの監視に用いられます。

岡山事業所排水マップ



3 環境の保護及び保安・安全に関する投資と費用

環境の保護や、環境への負荷の低減及び保安安全を確保するためには、既存設備の保守管理や必要な設備の設置などを継続的に行っていかなければなりませんので、その経費を確保することが必要です。岡山事業所では、これらの投資と費用を環境省のガイドラインを参考にして、表の「環境保護及び保安・安全に関する投資額と費用額」にまとめて公表しています。

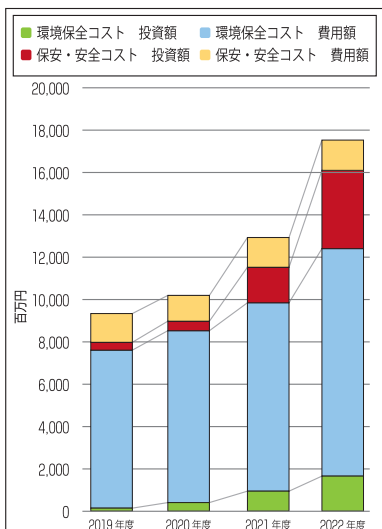
岡山事業所では、継続的に総額100億円前後を使用しており、2022年度は、大気へのガス放出対策としてタンク浮き屋根等設備の更新、タンク排出ガスの各吸収塔への導入、また水域への流出防止強化等で約175億円の投資を実施しております。

岡山事業所では、過去から環境負荷低減・環境保護の観点でさまざまな投資を行い設備の充実を図ってきましたが、今後も継続的に適切な投資を行い、環境保護や保安安全の確保に努めていきます。

■環境保護及び保安・安全に関する投資額と費用額

(単位:百万円/年)

年 度	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
	投資額	費用額	投資額	費用額	投資額	費用額	投資額	費用額	投資額	費用額
環境保全コスト	392	7,493	140	7,462	402	8,117	940	8,898	1,652	10,744
保安・安全コスト	318	1,906	370	1,357	450	1,217	1,677	1,404	3,697	1,429
合 計	710	9,399	511	8,818	852	9,334	2,617	10,302	5,349	12,174
総 額		10,109		9,329		10,186		12,919		17,523



投資額とは？

解説

当該年度に環境保護や保安・安全確保のための設備を購入・製作した金額です。

費用額とは？

解説

設備の償却費、維持・管理・推進するための人件費、その他の経費です。

4 環境保護への取り組み (つづき)



4 廃棄物の管理

■ 廃棄物のゼロエミッション活動

岡山事業所では「ゼロエミッション活動」の取り組みにおいて、廃棄物の発生量に対する最終処分での埋立率を1%以下とする目標を定めて、2010年度から積極的に廃棄物を再資源化する『リサイクル活動』を展開してきました。

2022年度から埋立率目標を0.5%以下と引き下げ、再資源化率の高い処理会社との連携を強化することにより埋立率0.08%とすることができました。

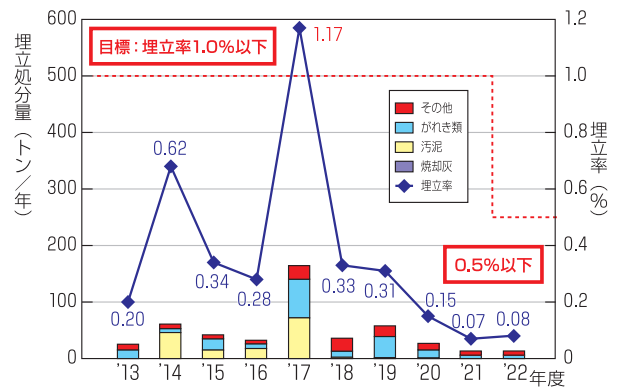
2023年度も、処理会社との連携や事業所内での再資源化方法を検討することで、再資源化処理を進めてまいります。

廃棄物のゼロエミッション活動とは？

解説

廃棄物の発生を削減するとともに、発生した廃棄物の再資源化を進め、埋立処分量を限りなくゼロに近づける活動です。

廃棄物埋立処分量と埋立率



埋立廃棄物の再資源化

解説

今まで埋立として処理されてきた廃棄物の多くは、細かく破碎・粉砕し、あるいは焼却処理して焼却灰とした後、コンクリート材料や路盤材料等として再利用されています。

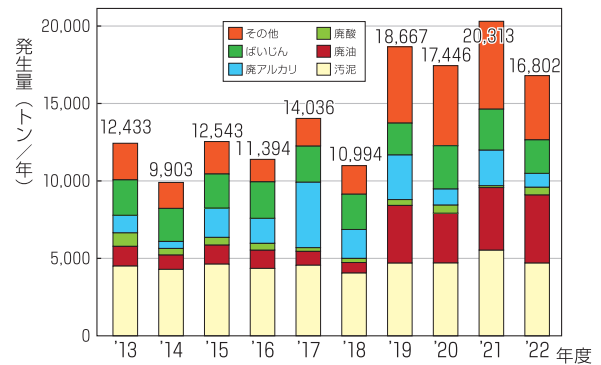
◆ 廃棄物の発生量について

2022年度の廃棄物発生量は、2021年度より、約3,000トンの減少となりました。

これは、隔年で排出される廃棄物の排出が2022年度はなかったことや、2021年度に多く実施した老朽化設備の改修工事、撤去工事が少なくなったことが減少の要因となっています。

今後もより一層、再資源化率の高い方法での処理を取り進めていきます。

種類別 廃棄物発生量



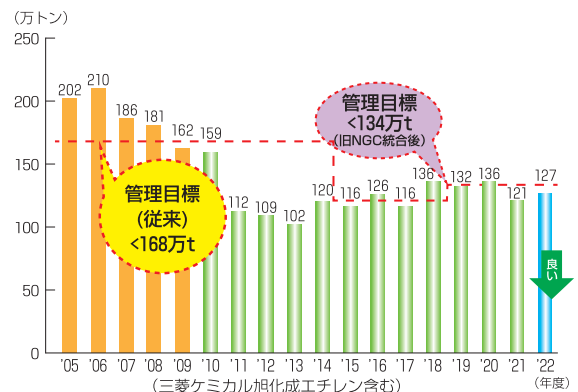
5 地球環境問題への取り組み

岡山事業所は、その排出する温室効果ガスの多くが、燃料・電力・蒸気等のエネルギーに起因するCO₂であることから、環境負荷低減を実現するべく、徹底した省エネルギー活動に取り組んできました。

2019年度には旧日本合成と統合し、事業所規模は増大しましたが、各種省エネ活動の推進によりCO₂排出量を抑え込めました。2022年度のCO₂排出量は、定修規模差による影響もあり、微増しましたが、日頃の維持管理の効果もあり、管理目標を達成する結果となりました。

2023年度は、例年以上に安全運転・安定操業に努め、かつ、CO₂排出量の目標を達成するために、CO₂削減テーマの選定・検討取り進めを推進し、さらなる温暖化防止活動を取り進めてまいります。また、2021年10月に掲げた「2050年カーボンニュートラル実現に向けた方針」に沿って燃料転換やCO₂の利活用による原料転換を行うことで水島コンビナート各社、地域行政と温暖化対策に取り組んでまいります。更にプラスチックによる海洋汚染対策についてもプラスチックリサイクル技術導入など資源循環経済の構築に貢献できるように取り組んでまいります。

温室効果ガス排出量 (CO₂換算)





5 保安防災への取り組み

■ 保安管理

岡山事業所エリアで働く従業員をはじめ、協力会社の皆さん、地域の皆さんの安全の確保のため、「保安事故ゼロ」の目標を掲げ、さまざまな保安管理活動に取り組んでいます。

また、この活動の仕組みを改善するため、社内外の監査に加え、第三者機関による保安力評価手法を活用して、事業所または職場の弱みを認識し、継続的な改善・向上に努めています。

■ 危険源の特定とリスク管理

私たちが取り扱う物質は、多種多様な危険物や高圧ガスですので、危険な状態になることを防ぐために、**保安に係るリスクアセスメント**の方法を定め、プラントに潜んでいる危険源（ハザード）を特定し、管理しています。

リスクアセスメントは、設備、運転条件、原材料などの変更時や、事故事例の教訓などから、見直しが必要と判断したタイミングで、自職場のメンバーだけでなく、経験豊富な有識者を交えて行っています。またリスクアセスメント結果は、繰り返しレビューを行い網羅性を高めています。その結果から、製造プロセスや現場作業のリスク低減に繋がっています。

保安に係るリスクアセスメントとは？（RA：Risk Assessment）

解説

危険源（ハザード）が顕在化する場合に考えられる原因事象は何か、事業所が許容しない最終事象に繋がるトラブルシナリオは何か、許容可能なリスク範囲となっているかを判定し、許容不可なリスクについては、その低減対策を立案するまでの一連の安全性評価の手法です。



●2022 年度保安技術検討会



毎年、保安技術に関する議論の活性化、及び共通テーマの横通しにより、理解と知識を深め、保安技術力の向上を図ることを目的に、保安技術検討会を開催しています。

2022年度は、検討された個別テーマに加え、製造課の保安に係るリスクマネジメント状況についても、計画と進捗の報告を行い、事業所全体のリスクマネジメントの充実を図っています。

■ 運転管理

事業所のプラントのほとんどが、24時間、連続運転を
していますので、交替勤務の体制を組んで昼夜、プラントの
運転・監視を行い、安全・安定
操業に努めています。

(写真：化成品製造部 機能溶剤課)

◆◆◆安全な作業環境の追求◆◆◆



●計器室における運転監視



自動車のハンドルくらいの大きさのバルブ操作では、これまでかなりの力が必要でしたが、操作補助治具を採用したことで小さな力でもバルブ操作ができるようになり、心身に負担のない安全な作業環境の改善を達成しました。この取り組みは、事業所内にも広がっています。



●始業時ミーティング



●現場パトロール

5 保安防災への取り組み (つづき)

■ 設備管理

プラントを安全な状態に保ち、社会に不可欠な製品の安定供給責任を果たすため、事業所の設備管理方針に基づき、設備の信頼性向上に取り組んでいます。近年では、タブレット端末や小型ドローンなどの新技術を導入し、設備管理のDX(デジタルトランスフォーメーション)を進めています。



●タブレット端末と検査装置を連携した設備検査
(検査記録のデジタル化による効率的なデータ管理)




●小型ドローンを活用した外観点検
(上空から撮影することでアクセス困難な箇所が容易に点検可能)

■ 自主保安の推進

高圧ガス保安法、労働安全衛生法に基づいた自主保安の認定を地区ごとに取得しています。認定取得には、運転・設備・保安安全それぞれの管理体制が整備されていることが、求められます。

また、新技術の活用により、事業所設備の異常・予兆検知できる環境を整えることにも注力しています。今後も、さらなる自主保安力の向上に努めてまいります。

法	認定制度 (インセンティブ)	潮通地区	松江東地区	AMEC
高圧ガス保安法	◆高圧ガス完成検査及び保安検査実施者認定制度 (事業者自ら保安検査及び変更工事の完成検査ができる)	1988年度 取得 2018年度 更新	2003年度 取得 2018年度 更新	2018年度 取得
	◆特定認定保安検査及び完成検査実施事業者認定制度 (上記制度に加え、検査方法の自由設定、スーパー認定マーク(右)の活用等ができる)	2018年度 取得 	—	—
労働安全衛生法	◆ボイラー等の開放検査周期認定制度 (開放検査周期を最大8年間とし、その間は1年ごとに運転時検査または停止時検査ができる)			
	開放検査周期2年	1997年度 取得 2022年度 更新	1998年度 取得 2022年度 更新	1997年度 取得 2022年度 更新
	開放検査周期4年	1999年度 取得 2022年度 更新	—	1999年度 取得 2022年度 更新

石油化学工業協会より保安表彰 受賞

担当職場の安全管理、作業管理等の能力が高く、一定の技能・資格・経験を有しかつ知識・技能の普及や継承について積極的に活動していることが認められ、保安表彰を受賞しました。
2022年10月18日

◆受賞者 ポリエチレン2課 大西さんの声◆

この度は、保安表彰という大変名誉ある賞をいただき、誠にありがとうございます。大変光栄に感じていますが、同時に責任の重さも痛感しています。我々化学プラントでは、システムの進歩、DX技術の導入等の進化と共に、設備の老朽化も進んでいます。人は成長しますが世代交代もあります。

この設備と人の、長所・短所をしっかりと把握して、トータルの保安力の維持向上を目指して、チーム全員、また事業所全体で保安・安全活動に取り組んでいきたいと思っておりますので 今後とも、ご指導の程、宜しくお願い致します。

石油化学工業協会とは？

解説

石油化学工業の健全な発達と国民経済の発展に寄与することを目的として活動している会員会社26社からなる組織のこと。



■ 地震・津波に対する取り組み内容

岡山事業所では、従来南海トラフ巨大地震を想定した対策を実施してきました。東日本大震災以降は、国や岡山県にて検討された地震対策の報告書に基づいて、人命優先の考えの下、体系的、計画的に取り進めることにより、さらなる防災・減災対策の強化に取り組んでいます。

2023年度 赤→実施済み 青→活動中 黒→各年で計画

項目	詳細	進捗状況
マニュアルの整備	南海トラフ地震防災規程	実施済
	関係事業所との応援協定の整備、見直し	実施済
	事業継続計画(BCP)の整備	実施済
耐震診断と耐震対応	危険物タンク(特定/準特定タンク)の耐震対応	耐震対策継続実施中
	高圧ガス設備の耐震対応	実施済
	製造施設、研究設備、事務所等の耐震診断と耐震補強	共通系建屋：耐震補強実施中 事業系建屋：耐震診断実施中
液状化対応	製造設備、防災設備等の液状化評価と対応	実施済
プラント安全停止の確保	地震計連動プラント自動停止システム設置	実施済
	地震計連動導管自動遮断システム設置	実施済
	全停電対応	各課毎年度訓練実施
津波対応	津波による影響評価と対応	実施済
早期発見・通報	緊急地震速報	実施済
	自動ガス検知器設置	実施済
	自動放送システム	実施済
	社内通報システム	実施済
避難・防災対応	無線設備強化	実施済
	南海トラフ地震を想定した避難・防災訓練の強化	毎年度訓練実施
	従業員、協力会社等の安否確認の強化	毎年度訓練実施
	防災資機材、備蓄品の確保	実施済
	保安用電力の確保	実施済

■ 2022年度防災訓練

毎年、岡山県石油コンビナート等防災訓練計画書に基づいて、地震・津波の他に、危険物の漏洩、火災の緊急事態を想定した防災訓練を行っています。

事業所訓練実績(4回/年)

- 1) 6月28日 地震・津波安否確認防災訓練(地震発生後の、被害状況と安否を確認)
- 2) 9月5日 AMEC合同防災訓練(危険物火災時の対応方法と連携をAMECと実動で確認)
- 3) 12月5日 公設消防合同防災訓練(危険物火災時の対応方法と連携を公設消防と実動で確認)
- 4) 1月30日 図上防災訓練(危険物運搬車両からの危険物漏洩時の対応方法と連携を警察、公設消防と図上で確認)を行い、有事の際に迅速・的確な防災活動が確実に出来るように防災力を強化しました。

◆ 通報訓練

- ・119番への通報訓練(1回/週)
- ・防災要員への通報訓練(1回/2月)



5 保安防災への取り組み (つづき)

■ 人材育成

岡山事業所では、毎年、人材育成方針を決定し、従業員それぞれの業務や階層に応じた教育計画を作成し、意欲的に成長しながら、ものづくりを支えている人材の育成に努めています。

入社してから教育部門が行う知識・技術の習得のための訓練(OFFJT: Off the Job Training)と、現場の実作業スキル・意識を向上するための訓練(OJT: On the Job Training)を組み合わせた計4年間のプログラムで、人材の育成を図っています。

◆ オペレーターの教育

製造プラントで業務するオペレーターには、基本的な行動や操作および禁止事項を遵守できる人材に育てるための教育訓練を行うとともに、教育で得た知識を現場で活用できる工夫をしています。



温水循環プラント



温水循環プラントでの運転操作基本教育

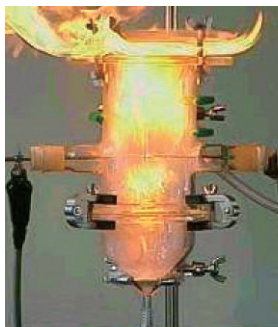
◆ 技術スタッフの教育

技術スタッフには、化学物質・反応危険の原理、原則を理解できる専門教育や、現場のプロセスの安全性検討へ参画、学習させる取り組みなどで、保安のリスクアセスメントができるプロセス安全技術者の育成を進めています。

■ 体感教育の充実化

事業所では、安全実技体験の教育資機材を整備しており、新オペレーターの初級講座、スタッフの導入講座、中堅オペレーターの教育等に活用しています。安全の原理・原則、トラブル・労災事例を座学で学び、その後、火災・爆発等のトラブル及び労災の疑似体験や通常経験する機会の少ない操作等を体感することによって、危険に対する感性を高めています。

また、VR (Virtual Reality: 仮想現実) 危険体感教育システムを導入し、現実では再現困難な危険現象を疑似体験することで、さらなる危険への感性向上を図っています。



火災・爆発体験



工具取り扱い



高所体験



VR体験

6 労働安全衛生への取り組み



- 1
- 2
- 3
- 4
- 5
- 6 労働安全衛生への取り組み
- 7
- 8
- 9
- 10
- 11

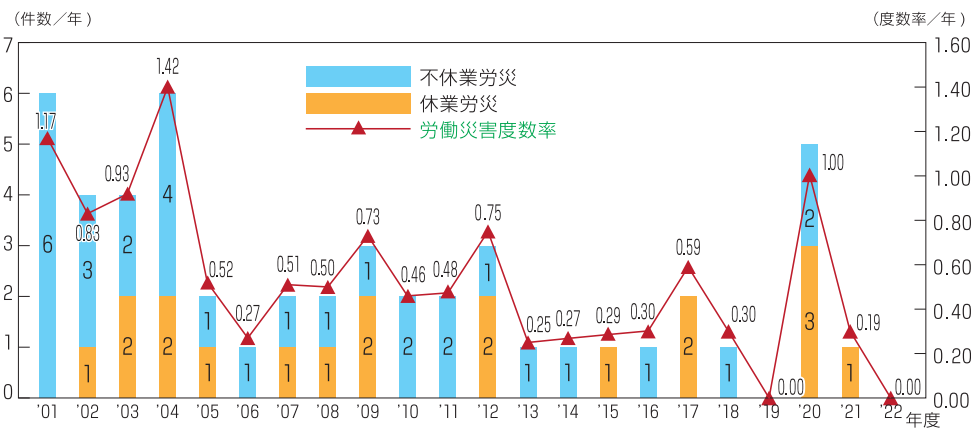
■ 安全成績

2022年度は、行動に起因する軽微災害が2件発生しました。(休業、不休業労災は無し) この反省を踏まえて、「労働災害ゼロ」を目指し、安全の基本行動の活動を今後も実施していきます。「自分の身は自分で守る『安全のプロ』」への徹底度を上げ、各職場で厳しさと温かさを持った声掛けに取り組み、心理的安全性を高めて、相互啓発型の「KAITEKI事業所」を目指していきます。

安全の基本行動とは？ 解説

岡山事業所エリアの安全で規律ある風土づくりのために、一人ひとりが身につけておかなければならない基本的な習慣化した行動です。

岡山事業所エリア労働災害件数と労働災害度数率の推移



労働災害度数率とは？ 解説

延べ労働時間100万時間あたりの労働災害の発生件数を表したもので、労働災害の発生割合を示します。

■ 三菱ケミカル岡山事業所 安全大会開催

第7回となる安全大会を7月18日に開催し、改めて従業員の安全意識の高揚を図りました。

事業所長安全講話 (抜粋)

従業員一人ひとりが「ものづくり力を確立し社会に貢献する事業所」構築の主役です。そのために必要な安全文化構築の主役でもあります。今一度、自分自身を振り返り、自ら取り組むべきことを考え実行できているか、これまでのやり方が本当に正しいのか、より良い方法はないのかを問いかけ、気づきがあれば、どんなことでも仲間と共有し、議論し合って、より良いものを作り上げて欲しい。

全員で一丸となって、この岡山事業所をこれまで以上に安全・安心で広く社会に貢献する事業所として作り上げていきましょう！



6 労働安全衛生への取り組み (つづき)

■ 従業員の健康づくり

岡山事業所では、健康支援グループに産業医と保健師が常勤し、健康保険組合とも連携して、従業員の心身両面の健康づくりに取り組んでいます。

◆ 身体の健康

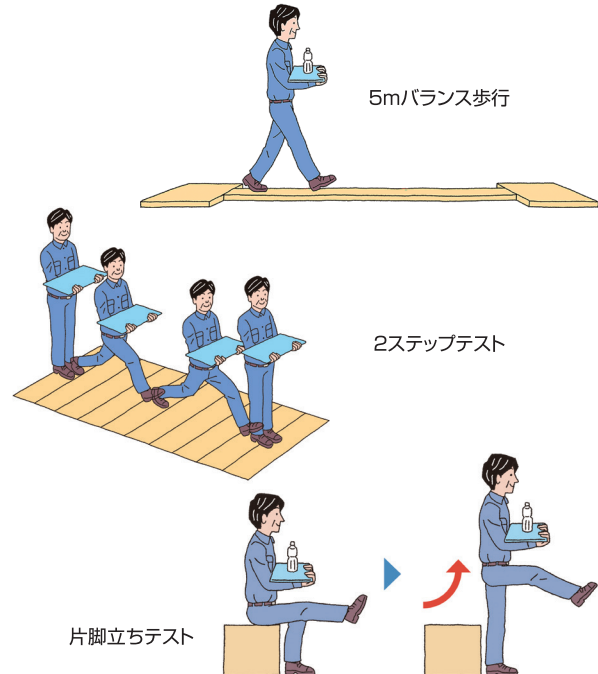
年に1回行う健康診断は、法定を上回る検査項目で実施しています。化学工場特有の化学物質や騒音等に関する健康管理も適切に行っています。

特に生活習慣病の予防には力を入れており、健康診断の結果、改善が必要な人には個別面接による保健指導と受診勧奨を行っています。

転倒労災防止に向けて筋力や柔軟性を向上すべく「KAITEKI体操」を実施し、その成果を年1回「安全安心体力テスト」にて確認しています。

2020年4月1日から国内の全事業所で就業時間内は禁煙とすることで職場における受動喫煙による影響を防止し、安心して快適に働くことができる環境を実現しています。

安全安心体力テスト



◆ 心の健康 (メンタルヘルス)

いきいきと活力のある職場づくりを目指し、職場による支援体制の構築のために、研修会の開催など「心の健康づくり (メンタルヘルスケア)」にも積極的に取り組んでいます。

◆ 職場での支援体制

管理監督者は、心の健康の必要性や対処方法について実技を含んだ研修で学んでいます。この研修は1996年から継続的に毎年行っています。

◆ ストレス状態の自己診断 (ストレスチェック)

従業員は自分のストレス状態をパソコンを使って把握することができるようになっており、ストレス要因の改善等に活用しています。

◆ セルフケアの支援

外部講師による研修を実施しています。また、メンタルヘルス等のDVDや書籍を揃えており、職場内の教育に活用しています。

◆ 専門家によるカウンセリング

心の専門家である臨床心理士に定期的に来場してもらい、希望する従業員はカウンセリングを受けることができます。



管理監督者向けラインケア研修



全従業員向けセルフケア研修

7 定期修理における安全管理

■ 定期修理の目的

石油化学工場は年間を通して24時間連続で設備を稼働し続けていますが、安全・安定運転を継続するために、数年に1度設備を停止して点検・検査を行っており、これを定期修理（定修）といいます。車検で外観検査、電装部品等を点検・検査するのと同様に、石油化学工場の定期修理では各種装置、配管、計器等の点検・修理を行います。

■ 定期修理の規模

当事業所では定期修理を行う周期が、1年、2年、4年の設備があり、右表のとおり、定期修理を行う設備の数で「大規模」「中規模」「小規模」と呼んでいます。

定期修理周期	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
1年周期	○	○	○	○	○
2年周期	○		○		○
4年周期	○				○
定期修理規模	大規模	小規模	中規模	小規模	大規模

この定期修理の規模により入場する作業者の人数や通勤車両台数が増減します。

■ 定期修理の実施時期

定期修理を行う時期は設備によって異なりますが、1年のうちで最も多くの設備が定期修理を行う時期は5～7月です。この期間に定期修理を行う設備は規模の差により変わりますが、10～20設備（小規模：10設備、中規模：17設備、大規模：20設備）になります。

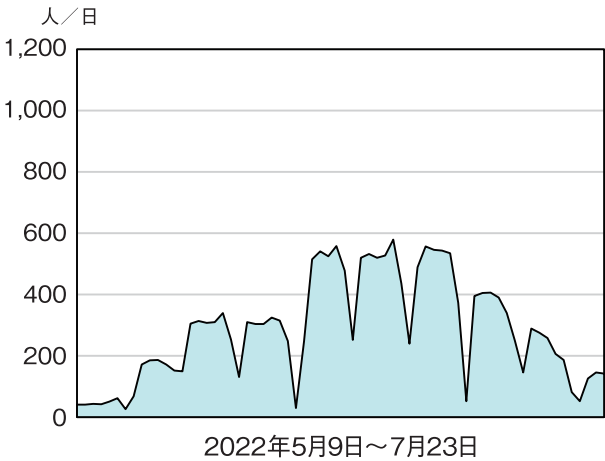
2022年度は小規模定期修理の年で、5～7月に10設備、1～3月に6設備の定期修理を行いました。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
10～20設備の定期修理		←		→								
2～7設備の定期修理										←		→

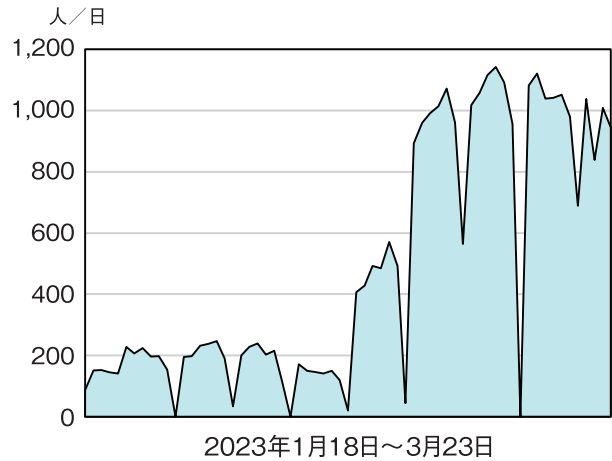
■ 2022年度定期修理での入場人員

2022年度は、2つの時期を合計すると、延べ約50,000名の作業者の方々が当事業所に入場しました。

【5～7月実績】
 ・延べ人員：18,817名
 ・最大人員：579名/日



【1～3月実績】
 ・延べ人員：31,910名
 ・最大人員：1,142名/日



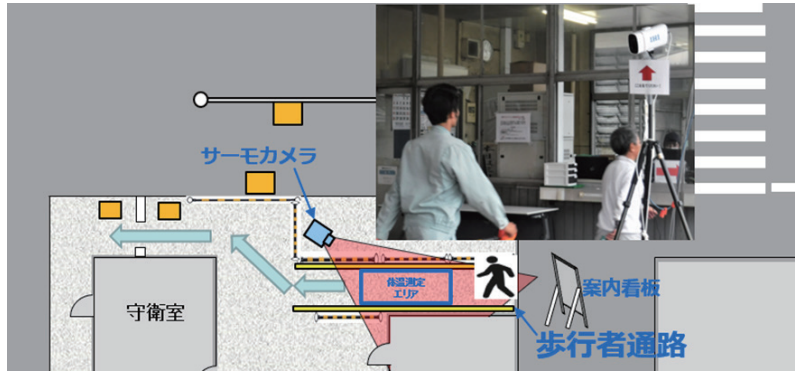
7 定期修理における安全管理 (つづき)

■ 2022年度定期修理期間中の新型コロナウイルス感染防止対策……………

全国的にも新型コロナウイルス感染症が収束しない中、感染防止対策を行い定期修理を実施しました。その一部を紹介します。

入場時の体温測定

入場時に非接触体温測定器を配置して、入場者に対し検温を行いました。



■ 2023年1～3月定期修理のゼロ災推進活動……………

ピーク時で約1,100名の方が当事業所内で作業に従事されるため、作業者の方々及び当事業所従業員の安全確保と近隣地区の交通安全確保を目的に「ゼロ災推進活動」を行っています。

ゼロ災推進活動は、当事業所従業員、点検・整備を行う協力会社の方が一体となり推進する活動です。

ゼロ災決起大会

定修開始へ向けたモードチェンジ及び安全目標の確認、共有を行いました。



安全集会

定修工事のゼロ災害完遂に向け、関係者が一堂に集まり、事業所長がゼロ災害に向けたメッセージを伝え、安全意識の高揚を図りました。

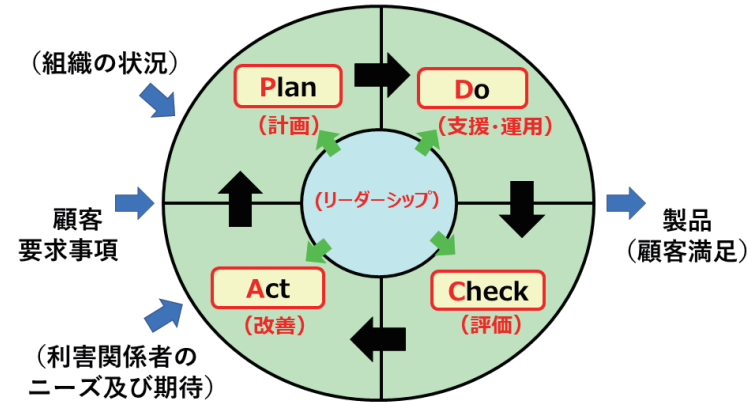


8 品質保証への取り組み



■ ISO9001 (品質マネジメントシステム) の推進活動

岡山事業所では、品質マネジメントシステムの国際規格であるISO9001を1995年に認証取得してから28年間の運用実績があり、お客さまに満足していただける「品質」の製品を製造・供給し続けることに努めています。PDCAサイクルを廻す体制を構築し、お客さまのニーズを把握し、継続的に「品質」改善を進めています。



ISO9001 認証書

ISO9001 (品質マネジメントシステム) とは？

解説

ISOはInternational Organization for Standardizationの略称で、日本語では「国際標準化機構」と翻訳されます。ISO9001は品質マネジメントシステムに関する要求事項が規定されています。

■ 品質コンプライアンス教育の推進

定期的に品質コンプライアンス教育を実施し、決められたルールを遵守することの重要性を理解させ、コンプライアンス遵守を徹底させています。品質に対するコンプライアンス意識の向上に努め、お客さまに安心して使用していただける製品を提供しています。



■ 内部監査員養成の取り組み

品質マネジメントシステムを運用していく上で、組織内で養成した監査員によって行われる内部監査は重要な役割があります。

自ら構築したマネジメントシステムが ISO 要求事項に適合しているか、目標達成のために機能しているかなどを確認し、是正点があれば改善へ繋げていくことを目的としています。

そのためには、有効な内部監査を実施することが大切であり、必要な知識と技能を備えた内部監査員が必要です。岡山事業所では外部講師を招き、監査員養成セミナーを開催し、監査員の養成に努めています。



内部監査員養成セミナーの様子(2023年8月)

- 1
- 2
- 3
- 4
- 5
- 6
- 7
- 8 品質保証への取り組み
- 9
- 10
- 11

9 化学品・製品安全への取り組み

■ 化学品管理の徹底

岡山事業所では、世界で暮らす人々の健康や、周囲の生き物全てに、化学品が悪影響を及ぼすことがないように、危険有害性があり、法で定められた化学物質について適正な管理を行うことで、社会的信頼の維持向上に努めています。

法改正により、事業者は法令を守ること「法令準拠型」に加え、事業者に「自律的な管理」が任されることになりました。

新たな化学物質規制に関する3要点の実施

1. 化学物質管理者は、ラベル・SDS 通知、リスクアセスメント対象物質に対する管理の実施
2. 化学物質管理者は、労働者のばく露防止・ばく露濃度の管理の実施
3. 保護具着用管理責任者は、化学物質を取り扱う労働者への適正な保護具の選択と使用及び保守管理の実施



今後も化学品に関する最新情報の収集整備に努め、化学品を適正に管理します。



■ 信頼性のある製品情報の精査と提供

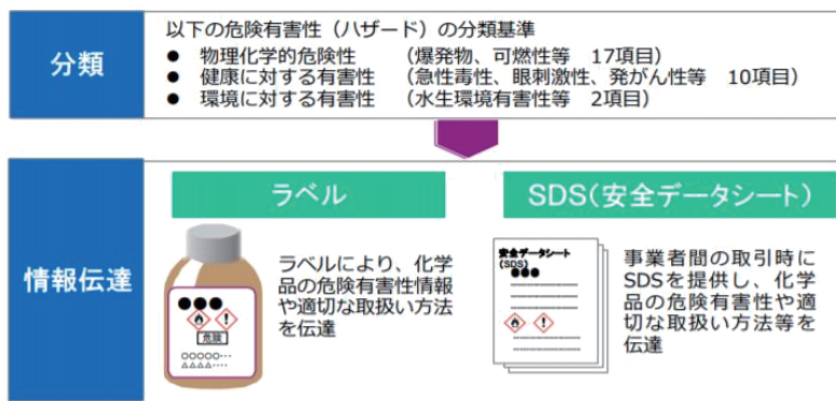
【原料、助剤等の化学品を取り扱う全ての作業員に対し、安全に関する情報を提供する方法】

① 取り扱い容器等へのGHSに対応したラベル表示

SDSより抜粋した有害性や危険性及び保管に関する情報を、化学品を取り扱う全ての作業員へ直接伝える手段として容器等に表示しています。

② GHSに対応したSDS(安全データシート)の発行

使用者が正しく使用できるように、また製品による事故及び災害を防止するための情報として配布しています。弊社の主要な製品のSDSはホームページで公開しています。



GHSとは？

解説

(The Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals)

: 化学品の分類・表示に関する世界調和システム

世界的に統一されたルールに従って、化学品を危険有害性の種類と程度により分類し、その情報が一目でわかるよう、安全データシート等を提供するシステムのことで。

SDS (Safety Data Sheet: 安全データシート)とは？

解説

事業者が化学物質を含む製品等を他の事業者へ引き渡す際に、その相手方に対して、その化学物質を安全に取り扱うための有害性、危険性、環境への影響、適用法令及び適切な取扱い方法等の必要な情報を提供するための資料です。

10 地域の一員として



1

2

3

4

5

6

7

8

9

10 地域の一員として

11

■ 三菱ケミカルの取り組み～「KAITEKI 実現」と SDGs への貢献 ……………

私たち三菱ケミカルグループは、人、社会、そして地球の心地よさがずっと続いていくこと—「KAITEKI実現」をビジョンに掲げ、そして、事業を通じて社会の課題に向き合い、社会とともに持続的に成長していくことを表明しています。私たちはこれまで、「レスポンシブル・ケア活動」を通して事業活動における環境負荷低減や事業所周辺の清掃活動等に継続して取り組んできました。こうした取り組みの多くは、国際連合の表明しているSDGsに貢献するものと考えています。そこで、KAITEKI実現そしてSDGsに貢献する、岡山事業所でのさまざまな取り組みをご紹介します。

※三菱ケミカルグループは、三菱ケミカルグループ株式会社とそのグループ会社の総称です。

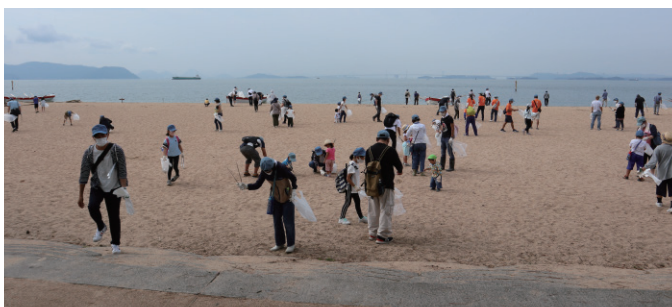
近年、海洋プラスチック問題に高い社会的関心が寄せられる中、当社グループも、清掃ボランティアをはじめとした国内外での活動へ、積極的に参画しています。また、当社グループ従業員の一人ひとは、消費者としてプラスチック製品を使用する立場でもあり、社会的な課題の解決と無縁ではありません。SDGsの目標に掲げられているように「つくる責任、つかう責任」が求められている今、海洋プラスチック問題については、事業活動を通じた貢献はもちろん、従業員一人ひとりも行動する必要があると考えています。

◎ リフレッシュ水島港クリーン大作戦への参加



2023年7月22日（土）、水島清港会が主催する「リフレッシュ水島港クリーン大作戦」が開催され、岡山事業所従業員及び家族74名がボランティアとして参加し、水島港周辺の清掃を行いました。岡山県、海上保安庁等の行政機関、企業、近隣住民の方々が活動に参加し清掃を実施しました。

◎ 海岸清掃活動



瀬戸内海に浮かぶ櫃石島や、岡山県玉野市の渋川海水浴場にて、岡山事業所有志による海岸清掃活動を実施しており、今後も継続的に、海洋プラスチック問題への対応をはじめとした、社会貢献活動に取り組んでいきたいと考えています。

11

10 地域の一員として (つづき)



■ 事前広報の実施

当事業所は、プラントの運転調整にあたり、フレア設備や発電設備などから、騒音や炎などが発生する場合には、近隣地域の皆さまに対して事前に広報活動を行うようにしています。

◎ 設備のご紹介

◆ フレア設備



◆ 集合煙突



フレア設備とは？

解説

プラントの運転停止や運転再開時に発生する不要なガスを、安全に燃やすための設備です。

集合煙突とは？

解説

発電設備で発生する排気ガスから汚染物質を取り除き、集合煙突から水蒸気と一緒に大気へ放出しています。

■ コミュニティへの貢献

岡山事業所は、国内外問わず、さまざまな地域で事業活動を展開しています。事業による社会への貢献に加え、それぞれの地域の文化や習慣に対する理解を深め、良き企業市民として社会や人々からの要請・期待に応え、地域の発展に貢献することが、地域の一員として重要な使命と考えています。これからも、地域社会との交流の機会を持ち、皆さまと共に歩んでいきたいと考えています。

◎ 地域清掃活動



例年、ボランティア活動として、岡山事業所の従業員とご家族にご参加いただき、倉敷市の「全市一斉ごみゼロキャンペーン」に合わせて、事業所周辺の清掃活動を実施し、水路などのごみを回収しています。



毎月15日の岡山事業所3Sデーに事業所周辺の道路沿いの清掃活動を実施しており、多くの従業員が参加しています。

今後も継続的に、活動に取り組んでいきたいと考えています。

※3Sとは整理、整頓、清掃

◎ 駅伝大会の実施



2023年4月21日（金）、岡山事業所従業員を対象とした事業所駅伝大会を実施しました。

全体で52チーム・333名が参加し、汗を流しました。事業活動を通じた社会への貢献を続けていくためには、従業員自身が健康維持に努めることも大切であるとの考えの下、こうした活動を実施しています。

◎ インターンシップ生の受け入れ



高校生、高専生、大学生等を対象とした、インターンシップ生を毎年受け入れています。事業概要やものづくりの理解を深めてもらうため、事業所見学や講義を実施しています。

◎ 例年の活動のご紹介

サマーフェスタ



周辺地域の皆さまにもご来場いただき、笑顔あふれる楽しいイベントを実施しています。

◎ 里山保全活動



事業所の生産活動において、たくさんの水の恩恵を受けているため、その水源を守り育むことを目的とし、伐採や草刈りなどの作業を行っています。

11 さいごに

RCレポートを手にとってくださいありがとうございます。
2022年度RCレポートに対し、貴重なご意見、ご感想をいただき誠にありがとうございました。
今後も、環境活動や安全活動の発展のために活かしていきたいと考えていますので、今後とも忌憚のないご意見をお寄せいただきますよう、宜しくお願いします。

■ アンケート結果

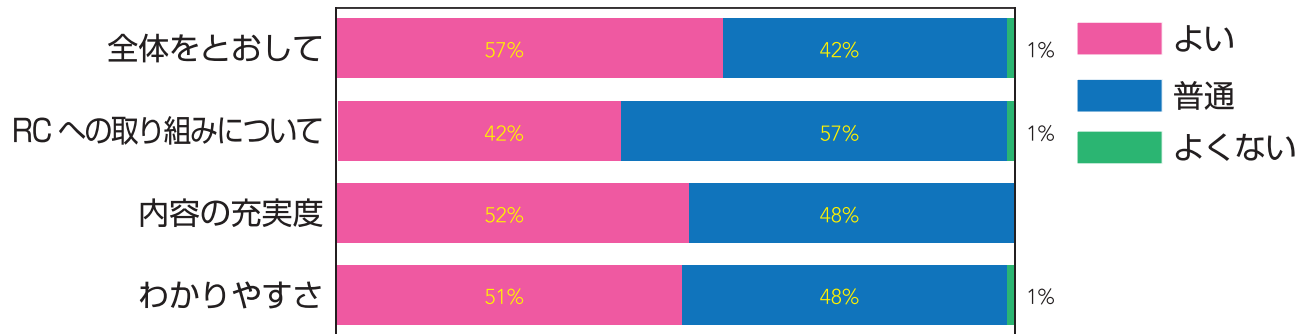
1. ご感想をいただいた皆さま

- ◆従業員、家族
- ◆グループ会社の方
- ◆コンビニート企業関係者

2. 印象に残った内容

- ◆保安防災への取り組み
- ◆事業所排水の管理
- ◆地域の一員として

3. RCレポートの感想



4. ご感想・ご意見など

- ◆環境保護の取り組みが評価できました。
- ◆専門的な用語の解説があったため分かりやすかったです。
- ◆ページ両端の番号と項目が解りやすくなっていると感じました。
- ◇災害を想定した備蓄品の紹介があると良いと思います。
- ◇訓練の実施内容の紹介があると良いと思います。
- ◇製品が出荷から使用・廃棄されるまで、環境に配慮した取り組みをどのように行っているか知りたいです。

■ RCレポート発行状況

RCレポートの発行は、2001年より始めており、毎年発行しています。

作成は環境安全・品質保証部門を中心に、企画管理部門、総務部門、設備技術部門、人材育成部門、三菱ケミカル旭化成エチレンから選出された委員で行っています。

配布は、地域にお住いの皆さまを中心に、官公庁、お取引先の皆さま、見学来場者、グループ会社、従業員等に行っています。

なお、ホームページからもRCレポートを閲覧できます。



この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

三菱ケミカル株式会社

岡山事業所

〒712-8054 岡山県倉敷市潮通3-10

お問合せ： 086-457-2815

<https://www.m-chemical.co.jp/company/mcc-location/office08.html>

